



## 挑戦することが夢を叶える秘訣 ～スポーツ交流大会～

3月3日、北京オリンピックの女子ソフトボールで投手として活躍し、金メダルを獲得した坂井寛子さんを講師に迎えて、スポーツ交流大会がくろいそ運動場で開催されました。

講話では、坂井さんから会場に詰め掛けた子どもたちに対して、「諦めたら終わり。挑戦し続けることが大切」とメッセージが贈られたほか、体験教室では、見学していた人たちから坂井さんの投球に対して感嘆の声が上がっていました。



さまざまな変化球に、会場からは感嘆の声が。



金メダルを手にする子どもたち。子どもたちの興奮は最高潮に。



見た目よりずっしりと重い金メダル



## 65年の歴史に幕 ～黒磯准看護学院第65回卒業式・閉校式～

3月31日、那須郡市医師会立黒磯准看護学院が65年の歴史に幕を下ろしました。黒磯准看護学院は昭和27年4月に黒磯准看護婦養成所として開校して以来、医療を支える准看護師1523人を送り出してきました。

閉校に先立ち、3月1日に最後の卒業式と閉校式が行われました。会場にはこの学院を巣立った卒業生や授業に協力してきた医療関係者が出席し、学院との別れを惜しまました。



最後の卒業生は9人。



多くの人たちが学院との別れを惜しんだ。



「那須塩原音楽のまちをつくる会」による生演奏が、学院の最後に華を添えた



## ママの目線でまちの魅力を発掘 ～ママによるマップづくりプロジェクト～

地域おこし協力隊の沼崎隊員の企画で、子育てママの交流会が2月から3月にかけて開催され、市内在住の17人のママが参加しました。

この交流会では、参加した子育てママたちが生活の中で感じている魅力的なお店や、利用している子育てサロン、病院などの情報をもとにママのための情報マップを制作。

完成した子育て情報マップは、5月以降に市役所などで配布予定です。



## 五穀豊穣を祈願 地域で舞をつなぐ ～西富山の獅子舞～

3月11日の正午前、ドン、ドン…という大きな花火の音を合図に始まった西富山の獅子舞。江戸時代に始まったとされるこの獅子舞は、戦時中に中止を余儀なくされましたが、平成2年に80年ぶりに復活。市無形民俗文化財に指定され、世代も異なる保存会のメンバー11人が、仕事終わりに集まり、練習を重ねてきました。この日は近所の子どもたちも集まり、舞の途中でお菓子がまかれると、嬉しそうに袋いっぱい詰めていました。



## みんなで一緒に世界のリズムを ～那須野が原博物館 ジャズコンサート～

3月10日、那須野が原博物館で本市出身の若きピアニスト・相馬ゆかり氏率いる“塩ジャズ Possibility”のジャズコンサートが開催され、普段は静かな博物館に、ジャズの色音が響きました。演奏に合わせて、南米やアフリカなど世界のリズムを観客が手拍子するコーナーでは、日本に馴染みのないリズムに最初は皆さん悪戦苦闘。しかし、最後は練習のかいあって、みんなの息はピッタリに。会場は一体感に包まれていました。



## 方言で語る 那須地域のいいところ ～那須地域定住自立圏 講演会～

3月10日、黒磯文化会館で本市在住のとちぎ未来大使・嶋均三氏の講演会が開催され、300人を超える観客が会場を埋め尽くしました。「方言で語る 那須地域のいいところ」をテーマに、地域の魅力をユーモラスに語った嶋氏。自身が祖父と暮らしていた時に起こった“ごじゃっぺ”な珍事件の数々に会場は大爆笑。方言で語られる登場人物はどこか“ひょうきん”で温かく、そんな人の存在が「地域のいいところ」だとあらためて感じました。

※「でたらめ」の意味。